

1. 評価結果概要表

作成日 2008年9月29日

【評価実施概要】

事業所番号	0875100018		
法人名	有限会社 グッドライフ		
事業所名	グッドライフ真壁		
所在地	〒300-4417 桜川市真壁町飯塚1017 (電話) 0296-54-1661		
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成20年9月29日	評価確定日	平成21年1月26日

【情報提供票より】(平成20年 9月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年11月 15 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8 人, 非常勤	人, 常勤換算 8 人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	45,000 円	
敷金	有() 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(9月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名	
要介護1	1 名	要介護2	3 名			
要介護3	4 名	要介護4	1 名			
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	83 歳	最低	68 歳	最高	99 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	県西総合病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

優美な筑波山ろくを見上げ、ふもとの田園風景の中に位置しながら、一方ではコンビニやスーパー、銀行などが隣接している。入居者にとっては幼いころから見慣れた筑波山を眺め、渡る風や稲の変化に季節を感じ、ある日は散歩を兼ね買い物に出かけ、五感を刺激できている。ホームでは「認知症になってもその人らしい暮らし」「利用者本位のケア」をモットーにとりくまれており、入居者それぞれが出来る範囲での役割を持って頂き生活できるよう支援されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)	運営者と管理者が、前回の評価結果に関し再考され、重点事項を整理し、ミーティングで職員に経過報告と今後の取り組みについて啓発、新たな課題にむけ、ホーム全体で取り組まれた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	新しい課題を明らかにしたうえで、現場でなければキャッチできない利用者の変化など職員の気付きを大切にし、それをミーティングで共通認識し、日々のケアにあたる努力をされた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)	家族、市町村など、参加される方々の都合もあり、開催日の決定に関して苦慮されているものの、おおむね2ヶ月に1度のペースで開催されている。(本年は5月末、7月末に実施された。次回は10月上旬予定)会議では、ホームの活動内容に加え、地域におけるグループホームの機能や役割、特徴を理解して頂けるようご説明している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)	ホームには苦情箱を設置している。また重要事項説明書に相談・苦情担当として「管理者の氏名」と「市町村、高齢福祉課」の連絡先を記している。ご家族からのご意見は窓口である管理者から運営者に伝えられ、職員を交え善後策を検討されている。またご家族の面会を「ご家族のご意見を伺う場」としてとらえ、大切にされている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	利用者と職員が一緒になって、地域のお祭りなどに参加している。また、利用者が施設以外の住民と触れ合う貴重な機会を大切にされており、例えば、小学生の登校、下校時にあわせ、入居者が玄関先でくつろぐようセッティングし子供達との会話を楽しめるよう配慮したり、散歩は近隣の高校をコースにいれるなどの工夫をされている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	玄関や事務所に「理念」を掲げている。『利用者本位』『認知症になっても個別性を大切にする』『地域密着を旨とする』という理念を大切に運営している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の、申し送り時を理念を共有する機会としている。また職員全員が見る「申し送りノート」には理念を記した用紙が添付されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	従来より地域のお祭りなど、イベントには積極的に参加されている。また、現在有効利用されていない施設フロアについて、「近隣住民から利用の希望」があれば、入居者に支障のない範囲でのイベントも検討している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義に関しては、入職時に運営者より職員へ、ワムネットを開いて見る様に指導している。また改善点はミーティング時、職員とその改善点を共有し、取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日程の調整に苦慮されながらも、ほぼ2ヶ月に一度のペースで開催。ご家族、民生委員、ケアマネジャー、時に、市の生活保護担当者、運営者が集っている。グループホームとしての活動報告が主な議題。		

茨城県 グッドライフ真壁

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者が常に市役所へ出向き、ホームでの出来事を報告したり、市からは空床の問い合わせなどの相談がある。行政の窓口へは常に行き来している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ご家族が利用料金を毎月持参して頂く際や面会時に、利用者の様子をお伝えしている。(大きな変化があったときにはその都度電話報告)利用者各人に小遣い帳があり、詳細は毎月郵送している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関に苦情箱を設置してある。ご家族面会時の訴えなどには管理者が主に入り口となって対応、職員に情報を伝達し皆で改善策を検討、実施している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ご家族面会時に説明している。利用者に対しても、職員が説明をし、ダメージが少ないよう努力されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県が主催する研修会などへ参加希望はあるが、スケジュール調整に苦勞している。しかし、職員一同研修意欲があり、自らホーム内での勉強会を企画、実施している。最近では(内服薬に関して)学習会を実施した。今後も「感染症」「窒息時の対応」など検討中。更に充実させていきたいと考えている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	桜川市はGH連絡協議会の設置はない。しかし、各GHの運営者が常に交流をもち、お互いに相談しあうなど、話し合いの機会を大切にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	現在は満床の為、「体験入所」は出来ないが、入所当初から利用者の不安を軽減できるよう、他の利用者との会話の橋渡しをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の状態に応じ、無理のない範囲で「出来ることは出来るだけやって頂く」ようにしている。利用者同士、車椅子を押しやり押しされたり、という思いやりのある行動を大事に見守り、また育んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活史に関してはご家族、利用者から丁寧に情報を頂き、個別ケアに活かしている。またホームで、他の利用者と一緒に暮らしていかれるよう、日常の様子から得た新しい情報は常に職員全員で共有している。(ミーティングや申し送りノート利用)		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族から頂いた情報やスタッフの気づきなどを出し合い、検討し計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3～6ヶ月ごとに計画を見直している。見直し時期にこだわらず、状態が変わった時にはその都度見直しを実施。計画実施した後、利用者のその後の評価をして、常により良いケアを提供したいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	理容、美容サービス、通院サービスを行っている。また入院日から約一ヶ月を目安に、居室はそのままにしておく。仮にホームに戻れない身体状況時は、他の施設への入所に関して相談にのれることもある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクターが2週間に一度、往診に来てくれる。ホームドクターの指名もご家族、利用者の希望に応じて連携をとっており、隣の市より往診を受けている利用者もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に「緊急時は救急搬送する」ことで同意を頂いている。ご家族からホームでの看取りを希望されることもあり、その場合には契約者、管理者、看護師同席で、その看取りの方法に関して話し合い、文章に残している。また全職員へケア内容を伝達している。		看取りに関して話し合った場合、その書式に規定は無いが、「話し合いの内容」だけでなく「参加者指名(役職)」ご家族が理解し納得されたことが判るよう「サイン」など頂くことも検討頂きたい。また利用者の状態変化に応じ揺れるご家族の心情に即した、会議の開催も望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員入職時に「プライバシーの保持」に関して、契約書にサインをもらっている。また、記録物は事務所に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設としての一日のスケジュールはあるものの、個人希望を出来る限り尊重し、都合のつく限り対応している。朝寝坊して朝食がある程度遅くなるような場面にも対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼は職員と一緒に食事を摂りながら談笑している。朝、夕食は職員が一人のため見守りで食べて頂いている。食器の後片付けなど、利用者のもつ力を大切にして見守っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には全員、毎日入浴している。入りがらない利用者に対しても丁寧に対応し声かけや誘導の工夫により、入浴が楽しいものとなるよう努力している。入浴できない時には清拭実施。好みの入浴剤の利用もしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	習字や裁縫、園芸や散歩など、利用者の意向にそった支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩の他、利用者や食材の買い物に出ることもある。また月に一度の外出は恒例で、家族にはその様子を写真に収め送っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ事故防止のためホームの入り口に施錠をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	開所当初、運営者のご挨拶に近隣を回った際、緊急時の協力を依頼した。また普段から、職員自ら近隣のガソリンスタンドで給油をする際など、「いざという時は協力を」とお願いしている。1年に2回、消防署の協力の下、夜間を想定した避難訓練を実施している。	○	緊急時の「水」と「食料」3日分の備蓄を準備して頂きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量はノートに記入し過不足無いよう気をつけている。食事の熱量計算はしていないが、今後制限食の必要な利用者があれば医師の指示に従い対応してゆく。体重は月に1度測定している。刻みやペースト食なども、状態に応じて対応可能。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間のホールからは台所が見え、調理の美味しそうな匂いや、音が聞こえてくる。窓の外には見慣れた筑波山の姿があり、田園風景からは季節を感じる事が出来る。ホーム内では季節を感じる飾りつけをすることもあり、見たり、触ったり、嗅いだり、と五感を刺激される場面が多くある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	据え置きベッドはあるが、布団を希望される方には、床にマットと布団で対応可能。使い込んだお気に入り家具や、利用者によっては仏壇など、馴染みの空間で過ごせるよう配慮されている。		